佐賀県地域医療介護総合確保基金事業

看取り体制充実研修

　緩和ケアセンターでは、高齢者が自宅のみでなく住み慣れた場所や地域で、希望する形で終末期を過ごすことができるよう、介護保険施設の職員さんを対象に、緩和ケアの技術や考え方を体験してもらう実務研修を実施しています。

緩和ケア病棟で５日間の実習を受けられた職員さんの、感想文の一部を紹介します。

平成２９年３月１３日（月）～３月１７日（金）

　５日間の研修は、死についてじっくり考える日々でした。

講義や事例報告という形式での研修は多々有り、過去に受講してきましたが、現場での実践による研修は今回が初めてでした。ですから最初のうちは「何かを得て自分の施設に持ち帰ろう！」という気持ちが強く、個室が多いことや面会時間、設備などの環境面にばかり目がいってたような気がします。

そんな気負いで受けていた研修中に、お看取りに２回携わることができ、非常に貴重な経験をさせていただきました。看護師さんと一緒にケアに参加させてもらい、心温かい対応を実感する事ができました。

　緩和ケア病棟でのケアは、特別なことではなく、私達が普段施設でしている介護や対人援助と大差がないように思いました。利用者さんやご家族の話に耳を傾け、「その人らしさ」を知ることが基本です。緩和ケアとは当たり前の事をやっているのであって、特別な事ではないけれど、その瞬間・その瞬間を大切に患者さん・利用者さんに接する心に感動した５日間でした。

（ケアマネージャー）

平成２９年１０月１９日（木）～１０月２５日（水）

５日間の研修を終え、普段の私のケアを振り返り反省することができました。

また、看取りに関する知識が増え、利用者さんやご家族との接し方や、話の進め方も学ぶことができました。周りをよく見てちょっとした表現も見逃さないよう、観察力とコミュニケーション力を身につけようと思いました。

この研修で、エンゼルケアを体験させてもらい、最期の旅立ちをお手伝いさせて頂きました。今まで違う人生を歩んで来たのだから、最期も一人一人違うのは当たり前だとのお話が深く印象に残っています。自分の施設に戻って、その人らしさに配慮した介護ができるよう、意識して改善していきたいと思いました。

（介護福祉士）

平成２９年１０月１６日（月）～１０月２０日（金）

緩和ケアにおける看護とは何か？とちょっと意気込んで参加した研修でした。

「心にかける」の言葉を自問自答しながら臨んだ研修でもありました。

急性期の病院で長く看護師をしていた私は、自分の価値観を押しつけたり、同じ価値観を患者さんに求めていたのかも知れない、と気づくことができました。

ホスピス協会が「緩和ケアで嬉しかった事」と遺族にアンケートした結果は、

・看護師にいつもきれいにしてもらっていること。

・徹底した口腔ケアは、最期のお別れの言葉が言える様にとの想いが込められていること。

・先生や看護師にいつでも説明をしてもらえること。　と教わりました。

看護師である自分が行う事、やるべき事、しなければならない事を優先し、患者さんの容態や気持ちに配慮が足りなかった事に気づきました。

施設に戻ったら、スタッフ皆が同じスタンスで、自信を持ってケアできるよう、情報の交換と共有のため、コミュニケーションが重要だとも感じました。

今回の研修で自分の看護を振り返ることができて良かったです。

（看護師）